

■ 熱源の設置年度及びCOPの分布（区分Ⅰ）

- **トップ以外**：トップ以外の事業所から、2018年度に提出された点検表（2017年度実績）をもとに集計（第三者検証なし）
- **トップ**：トップレベル・準トップレベル事業所から、2018年度に提出された評価書（2017年度実績）をもとに集計（第三者検証あり）

○ターボ冷凍機

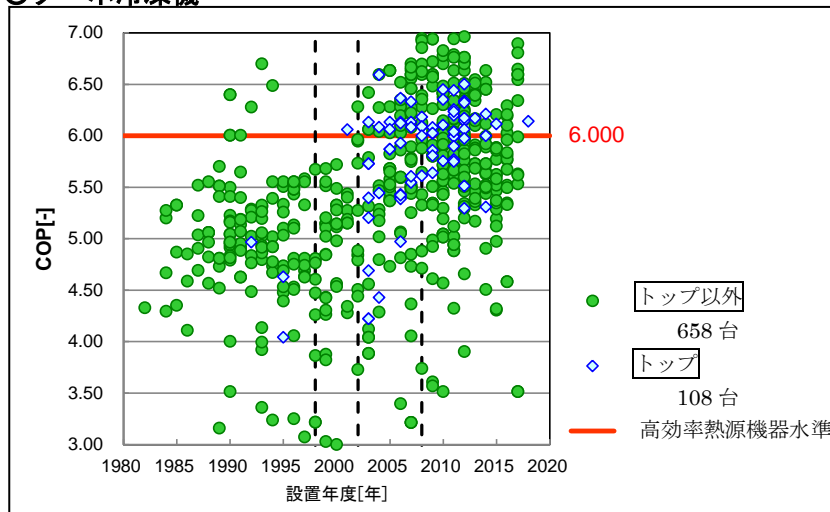


図1 ターボ冷凍機の設置年度別の機器COP分布

○トップ以外（点検表）		
設置年度	2002~2007年度	2008年度以降
機器台数	118	307
高効率機器数	36 (31%)	124 (40%)

◆トップ（評価書）		
設置年度	2002~2007年度	2008年度以降
機器台数	36	67
高効率機器数	13 (36%)	47 (70%)

表1 高効率機器の導入割合

<まとめ>

- ① 設置後20年超(1998年より古いもの)でCOPの低い機器が、全体の2~3割程度存在(図1・2)
⇒ 今後は、これら機器の高効率機器への更新により削減が見込まれる。
- ② 東京都が自主的な削減を求めた計画書制度を開始したのが2002年度。総量削減義務の導入を決定したのが2008年度である。
2002~2007年度より、2008年度以降の方が高効率機器の導入割合が大きく、より高効率な機器が選択されるようになったことがわかる(表1・2)。
- ③ しかしながら、2008年度以降の更新機器であっても、COPの低い機器が存在している(図1・2)。
⇒ 今後は、高効率な機器の選択を推進する必要がある。

○直焚吸収冷温水器（冷熱源）

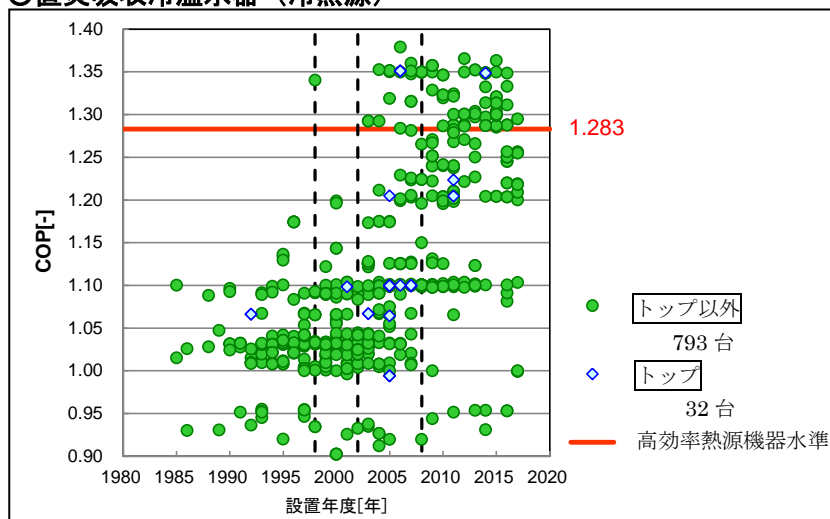


図2 直焚吸収冷温水機の設置年度別の機器COP分布

○トップ以外（点検表）		
設置年度	2002~2007年度	2008年度以降
機器台数	246	264
高効率機器数	24 (10%)	100 (38%)

◆トップ（評価書）		
設置年度	2002~2007年度	2008年度以降
機器台数	24	4
高効率機器数	3 (13%)	1 (25%)

表2 高効率機器の導入割合